

「三栄です」はいつもお世話になっております

三栄です

（台費）（トラックスケール）の定期検査があり、無事合格しました。

去る四月二日に（一社）

東京都計量協会による台費の検査があり、無事合格しました。この検査は、二年に一度実施しているもので、基準となる大きな分銅を順に乗せることで計量の正確さを検査するものです。

この台費は、皆様から回収した資源物を正確に計量する、トラックごと



これが台費です

第33号 発行元

株式会社 三栄サービス

東村山市 久米川町 1-16-5

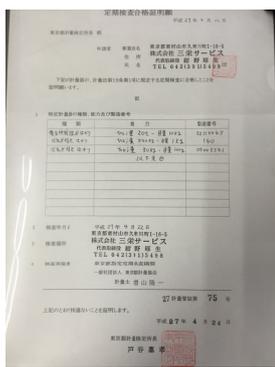


IPSuS 0002394

計れる大きなハカリです。回収を終えて帰ってきたトラックは、まず、この台費に乗ります。ここで

まず総重量（総費）を計ります。そして、新聞、段ボールと品目ごとに荷物を下ろすたびに台費に乗ることで、それぞれの重量が計測できます。最後の荷物を下ろしたら、空車を計量します。この

トラックスケールは、最低の計量単位が一〇キロなので、一キロ単位での計量が必要なアルミ缶などは、別に台ばかりで計ります。この台ばかりも検査を受けて合格していません。少量回収の際に使



用している上皿ばかりももちろん検査に合格したものを使っています。

最近、こうした検査を受けていないばかりを使用している業者や、不正な計量を行っている業者もいるようです。不当な高値を提示してくる業者や、混合積載を行っているような業者は、注意が必要かもしれません。当社は、検査は勿論、主任計量者が二名おり、正確な計量を行っています。

十一年ぶりに中国の古紙事情を視察してまいりました。

三月に、（公社）東京都リサイクル事業協会の中国視察に参加してまいりました。十一年前に古紙輸出が始まったところに訪問した時より、街並みも古紙リサイクル事情も変化したように感じました。

特に、今回は日本から輸出された古紙が陸揚げされる港湾、製紙メーカー、回収問屋を見学し、責任者の方々と懇談をして参

りました。何度か日本からの輸出古紙の品質管理についてお話がありました。南京市では、日本の昔の建物の様な回収拠点も見えてきましたが、これにより中国国内での古紙回収率が以前と比べて上がっているようで、日本からの古紙の輸入が今後減っていくのではと危機感も感じました。今や日本の回収古紙の二〜三割が輸出されています。元々選別が良く評価の高



い日本の古紙。引き続きしっかりと選別をし、品質管理をして、末永く使って頂きたいですね。

集団回収の団体様が見学に来られました。

当社で集団回収を実施している市内の自治会の皆様が見学に来られました。回収した荷物の流れを一通りご説明したあと、古紙再生促進センターのビデオを鑑賞、その後、実際のサンプルを見て頂きながら、古紙の分別や禁忌品についてご説明申し上げました。当社では、事前にご連絡頂ければいつでも見学を受け入れております。



ありがとうございました

